

第3回少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会 会議録

開催日時	令和3年5月14日(金) 午後6時30分～午後8時10分
開催場所	市役所 C 棟3階 311～313 号会議室
出席者	<p>座長:代田昭久教育長 副座長:後藤正幸</p> <p>研究会委員:松島ゆかり、斎藤辰幸、金田功次、清水麻由美、及川崇、松本智、塩澤章男、塩沢哲夫、伏木久始(リモート)、坂野慎二(リモート)、北澤正光 (欠席者)小澤伸好、岩崎守倫、木下博史 (敬称略)</p> <p>事務局:松下徹教育委員会参与、塩澤裕美子教育指導専門主査、麦島隆教育指導専門主査、小木曾雄亮教育指導専門主査、山浦貞一教育支援指導主事、櫻井英人課長補佐兼総務係長、竹村公彦課長補佐兼教育企画担当主幹、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、仲田好寿保健給食係長、上柳智広児童クラブ担当専門主査、熊谷一彦学校施設係長、小澤亮公学校施設係 (欠席者)桑原隆学校教育課長、湯本正芳学校教育専門幹</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 本日の研究会の内容 3. 委員・事務局名簿 4. 令和3年度学校運営協議会資料 5. 学校個票(28校分)
記録者	事務局竹村
<p>会議録</p> <p>1. 開会(事務局 以下2まで進行)</p> <p>2. 座長あいさつ</p> <p>冒頭に現在の小中学校の様子をお話しさせていただきたい。</p> <p>4月から職務代理と市内小中学校 28校のすべての教室を回って子どもたちの様子を見させていただいた。昨年はこの頃休校や臨時登校などで、教室に子どもたちの笑顔がない状況だった。それに比べると今年は元気な子どもたちの笑顔が教室にあり、本当に良かったと思う。さらに 1,2年前に比べても今年は良いスタートが切れたと思う。というのは廊下の装飾、生徒の目標や作品の掲示などいつもの年より学校の環境が整っている。また、教室での板書では今日の授業の目当てがしっかりと書かれており、先生と児童生徒の関係が非常にいいと感じた。今年もコロナの制限があるかもしれないが、子どもたちとしっかりと絆を育みながら学校教育が始まっていると感じた学校訪問だった。引き続き、地域の皆様、保護者の方々にはお力添えをいただくとお願いがよろしくお願したい。</p> <p>今日の研究会までは令和2年度の委員の皆様に出席いただいている。いよいよ今年度、学校運営協議会での話し合いをスタートさせる。そこまでは令和2年度の委員の皆さんと準備していきたいということである。今日は学校運営協議会での話し合いの資料をしっかりと確認いただきたいと思う。</p> <p>3. 協議事項(進行:座長)</p> <p>(1)研究会会議録の内容確認・公開について(説明:事務局)</p> <p>第2回研究会会議録については確認いただいた後、市ホームページに公開していきたい。また、第3回会議録についても同様に取り扱いしていきたい。(→会議録に修正等なし)</p> <p>(2)これまでの研究会の振り返り、令和3年度の進め方</p> <p>・資料の説明(説明:事務局)</p>	

I. 前提として

- ①地域により捉え方や認識に違いがあるため、丁寧に意見交換を進める
- ②飯田市の現状を説明したうえで、それぞれの学校の課題等を結論ありきではなく話し合う場とする。
- ③第1回研究会では「5つの提案」をもとに意見交換していくとしたが、丁寧な意見交換の妨げになる恐れがあるため、各学校の意見交換を踏まえたうえで、課題解決の手法の例として示していく。

II. 意見交換を始める前の関係者への説明、調整

- ①5月の研究会、公民館館長会、公民館主事会、まちづくり委員会連絡会議、校長会での説明後に意見交換を始める。
- ②意見交換の前には、教頭、公民館等と打ち合わせを行う。

III. 学校運営協議会での意見交換

①1回目(6～7月)

- ・飯田市や各中学校区を取り巻く現状の説明、共通理解
- ・今後の意見交換の進め方について

②2回目(9～12月)

- ・各学校での児童生徒数減少に伴う学習環境などをふまえて、地域が描く将来の学校像を話し合う。
- ・将来の学校像の実現に対する悩みや課題解決に向けた方向性を協議する。

※臨時の学校運営協議会の開催をお願いする場合がある。

IV. 意見交換後のまとめについて

- ・事務局で年度末を目途に「今後の検討のための資料」としてまとめる。そこには課題解決の手法の例として「5つの提案」を含める。
- ・各学校での意見交換の様子を他の学校へ情報提供する。
- ・令和4年度からは「今後の検討のための資料」をもとに、各学校、中学校区などで今後の学校のあり方について検討を進める。

～令和3年度学校運営協議会資料の説明～

(座長)論点としては「5つの提案」をこの資料から外したいということについて。12月の資料を見た方から教育委員会は5つの中から選ばせようとしているのかという意見をいただいたことがある。そうではなく自由な意見交換をしていくためである。このことも含めて皆さんのご意見をいただきたい。

(委員1)前回の伏木先生の話聞いてたいへん刺激を受けた。これからの世の中がどうなっていくのか、それに伴い学校はどうなっていくのか、どういう教育が理想なのかという話だった。このことを基盤として考えていくべき議論ではないか。これから学校運営協議会での議論を進めていくにあたり、共通の基盤とするべきではないか。

(座長)それは伏木先生のメッセージのようなものを資料に加えたほうが良いということか。

(委員1)そうです。

(委員2)5つの提案がなくなったこの資料で意見交換していくのは難しいのではないかと。地域の皆さんは学校を愛しているので、小さくても残していこうという話になっていくのではないかと。伏木先生の話とか、これからの新しい学校のかたちとかに触れる機会がないと、いきなりの話し合いは難しいのではないかと。

(委員3)話し合うとなっても当たり前のことしか出ない気がする。こちらが意図する方向にもっていくには、もう少しポイントを絞ったほうが良い。何を聞きたいのかのポイントを絞るのであれば5つの提案をしても良いのではないかと。また私たちが前回勉強した県内県外の例をみなさんに分かってもらうことは必要だ。

(委員4)今出たような心配はあるかとおもうが、スタートに当たって一番必要なことは現状認識である。資料にあ

る東中でいくと令和8年には142人になってしまう。地域の人は生徒数が減っていることは感じていても具体的にここまで減ってしまうことは分かっていないのではないか。まずは事実を共通認識することからスタートする。このことを共通認識することにより、やっぱり何か考えなくてはならないということをお互いに理解し合い、そこから何ができるのだろうということを考える。最初は漠然としてまとまらないかもしれないが、何か方向性を見出さなければならなかったときに5つの提案のようなものが参考になっていくというのが私は良いと思う。早急に何かを求めていくような課題ではないような思いがある。

(座長)資料のp3を見ていただきたい。1回で意見集約するのではなく、1回目は現状を説明し理解していただく、そしてそれぞれの学校でどのように進めていくかを考えてもらう。2回目で意見交換をするという2本立てで考えている。

(委員5)第1回の研究会で、このことを学校運営協議会で話し合いをしていくと出されたとき、それは難しいのではないかという発言をした。学校運営協議会の委員は自分の学校を基盤に考えると思う。それも大事だが自分の学校を通して広く飯田市の教育環境を考えていくという視点を与えられることが大きいと思う。第1回の意見交換ではそういう視点を持ってもらうきっかけづくりが大事だと思う。

(委員6)私が心配しているのはどういうロードマップで進めていこうとしているかということだ。教育長が仰るニュアンスは分かったが、それは3年計画なら良いと思う。もし今年度中に何かと考えているのならちょっとゆっくり過ぎる。また、2年度の研究会委員と3年度の委員がこれだけ変わるというのはびっくりした。

これから飯田市の教育を主役となって考えたいという人たちの意見が、どれだけ反映されるか心配になった。前回も子供の意見が反映できないかということを申し上げた。せめて保育園に通わせている親御さんの思いが聞けないだろうか。それぞれの地区のリーダーが、子育て世代やこれからPTAに関わる人たちの声をどこまで吸い上げられるか。いろいろな市町村に関わってきた経験からすると、進め方が少し心配だ。

斉藤先生が最初に仰ったように、こういう実態ですよということは分かっても、そこで意見を求められても困るだろうと思う。子どもの数が減るといことは、学校行政においてどういう影響があるのかということも教えてもらおうと更に良いと思う。教員定数の関係から教員がこれだけ減らされるとか、部活のこととか。前回お話ししたのは、これまでの私たちの世代が思っている学校の仕組みがそのまま20年後もそういうものだと思うのか、子ども主体の教育を飯田市が求めるとすれば、枠組み自体を柔軟に考えたほうが良いのかもしれないということだ。

(委員7)気になったのは住民の方たちの声の拾い方だ。教育委員会の原案でいくと学校運営協議会で議論ということだが、前回取り上げた栃木県の事例でいくと地区での懇談会をかなり丁寧にやっている。今学校に関わっている方も、これから学校に関わる方も、関心を持っている方が議論に加わる場があった方が良いと思う。

先ほど自分の学校区の話をするのか、市全体の話をするのかというのが出た。恐らく市全体のことをやっってくださいという荷が重いと思うが、市全体の中でどんな方針にしたいかということに意見をもらうのは可能だと思う。

学校を残すことも選択肢として含めて議論すべきである。残すとすると1学年1クラスになって固定化した人間関係の中でも良いと考えるか、より多くの人に揉まれたほうが良いと考えるか意見が分かれると思う。そうした人たちの意見を集めたうえでどうしていったらいいか考える必要がある。

学校規模をどの程度にイメージするか。新しい学校教育を考えたときに学校規模はどの程度関係あるのか。遠隔でも教育はできるので小さくても地域に学校があった方が良いと考えるか、遠隔でもできない部分があるからある程度の規模を考えたほうが良いのか。

教育委員会の資料では小中一貫をまず先にやりたいとある意味出ているが、どういう形にしたいか議論す

る場を作る。その場には学校運営協議会以外の方たちも含めるようにした方が良い。前回は栃木県の3つの例をお示したが1つ目の例はたまたま近くにいい土地があって話が進んだ。うまくいってないところはかなり学校が移動したり、通学距離が長くなったりで話が止まっている。そういう例を出していく必要がある。そういう中から地域が選択して、お金の面は教育委員会で調整して進めていくということになるのだろうと思う。

今日の資料でスケジュールがあったが今年1年でパブコメまでもっていくのはかなりせわしいと思う。栃木県の例でも長いところでは2,3年かけている。

(委員6)補足をさせていただく。坂野先生の話の中に子どもの数が減って人間関係が固定化するという話があったが、今の学校はどの教科もクラスを1つのユニットとして同じ人間関係で過ごしている例が多い。それをいつまで続けるのか。未来に向けた子供たちの教育は、私たちが受けてきた教育を再生産するのか、学級のあり方をもっと子どもの多様性にあわせたものにするのであれば1クラスの人数とか、単級だから寂しいというのは教師側が固定化するからそうなる。縦割りや複数学年で学び合う仕組みなど、多様性のあるものが共同して学ぶ仕組みを学校に導入すれば、単級などという問題は関係ないと思う。統合が悪いという意味ではない。適切な教育環境を整えるには統合や小中一貫が必要なところは確実にある。ただ従来の教育を前提に考えがちな地域の有識者や代表の方たちの集まりではそういう結論になりやすい。20年30年後に責任を持った議論をすれば、子育て世代と対話をするという構えが行政にないと後に禍根を残すのではないか。

(座長)第1回から変わったところを補足したい。第1回のスケジュールでは令和3年度末にパブコメをするとしていたが、今回の進め方には入れていない。今年度は準備の準備の年、来年度から各中学校区で議論をしていただきたいと考えている。各中学校区でどんな進め方をしたら良いかという話の中で、保護者やもっと若い世代を入れたほうが良いとなる地区もあるだろうと思う。それぞれの地区で状況が違うので、その進め方は地区で考えていく。今年度は現状を理解いただき、来年度から議論をする。地区によっては2年かかるところ、3年かかるところもあるだろうと考えている。そんなスケジュールである。

(委員3)現段階では現状を知ることによって良いかと思うが、それにしても人数の減少を見ると待ったなしのところに来ているのは間違いない。浜井場小に至ってはR8に二けたになる。確実なロードマップを示してもらって、どのあたりで鋭角的に切り込んで、いつごろ5つの提案を出すのかを周知しないと、突然提案されても不信を抱く。やはりロードマップは必要であると思う。

(座長)資料 p3 に「令和4年度からは「今後の検討のための資料」をもとに、各学校、中学校区等で今後の学校のあり方について検討を進める。」と記載したが、これではわかりにくいということですね。

(委員3)1学期に1回2学期に1回のペースで良いのか。決断を迫られる時期がそんなに遅くないうちに来るとわかっていながら、このペースで大丈夫かなどいろいろ思ってしまう。もう少し具体のロードマップがあった方が良いと思う。

(委員8)ロードマップに関して旭ヶ丘は山本と伊賀良と一緒に非常に広域であるので、1年でできるかは疑問だ。また、山本中と伊賀良中が一緒になったとき非常に揉めた。山本は二つに分かれた。自治会に反対の人がいて、地域の防災対策ができなくて消防団の法被を脱いだ人もいた。それくらい統合は大変な事なのでかなり慎重にやらなければならない。5つの提案はするけれど自分たちで他の案も検討していくことも大事だと思う。それにはこれからの子育て世代にも入っていただきたい。学校運営協議会だけでなく地域づくり委員会の役員も入れないとまとまっていけないのではないかと。逆に言うと地域づくり委員会に若い人を入れてやっていかないとまずいかなと思う。

(委員9)中心となるのはやはり子どもである。子どもがどうしたいかを聞き出すことも大事だと思う。PTAでもいろんな意見がある。私の学校は小さいが1クラスでは悲しい、統合して大勢な人数で勉強してもらいたいと思っ

ている親もいる。現状の説明が済んだら子どもやPTAにアンケートを取ったらどうかと思う。子どもがどう思っているのかを一番に考えていきたい。

(委員10)私もアンケートに賛成。私の子が高陵で柔道をやっていた時、東中はすごく強かった。今資料を見ると柔道部がない。子どもが少なくなるとやりたいことができなくなる。子どもたちがどう考えているか知るためにもアンケートを取るのが良いと思う。サッカー部がなくて悲しかったとか、そういうことを細かく聞いていったら良いと思う。

(委員2)子どもや地域のいろんな方の声を聞くのはとても大事だと思う。新しい学びや学校に向けてみんなで考えていかななくてはならないが、その情報を皆同じように持っているわけではない。特に子どもは自分の経験をもとに考えてくる。まずはいろんな形の学びや学校があることを知らないと、意見を聞いても苦しいと思う。例えば平谷中は私がいるときに阿智村へ統合になった。その時に子どもたちは投票したりしたが、今統合してどうなったかというのも情報だ。身近な事例もあるし皆で勉強していくことが必要だと思う。それから声を集めていく。勉強は継続して行く。そんなことが必要だと思う。

(委員1)先生の考えに賛成です。これから世の中も学校もどんどん変わっていく。新しい学校もできている。軽井沢学園などは子どもの学びたいことを学ぶということを大事にした学校である。先ほど部活動の話が出たが、部活動もきっと今までどおりではない。10年後20年後には学校で部活をやっていないかもしれない。地域のスポーツクラブに入っている可能性がある。未来がどうなるのかを皆で共有し、それについて議論するという仕方ではないと、今までの枠組みだけで考えていてはあべき方向性は出せないのではないかなと思う。

(副座長)運営協議会が今のような話し合いになれば良いかなと思った。運営協議会が我が事として、「子どもたちの意見を聞いてみよう」というようなことが協議会の方から出てくると良いかなと思った。何を以て我が事となるのかを考えたときに、まずは事実をきちんと知らせること。3つの事実のうち「コストがかかること」は市側の事実かもしれないが、「子どもが減少すること」でどうなるのか運営協議会が我が事として燃えてくるには事実をどうやって出すかが大切だと思う。上から考えさせられたのではなく、運営協議会の方から「どういう学校のあり方があるのか、県内や全国にはどんな例があるのか」と聞いてくるような、運営協議会自らが考え始めることが極めて重要だと思う。私たちが整えて出すものは全部上からくることになるのではないかな。ただし原点となる資料はきちんと出してあげなければいけない。例えば東中の部活動を見た時に、一学年60人に9部ある。どういことか聞いてみたくなる。このように運営協議会が我が事として考える最初は事実を知ることだと思う。

(座長)今日の資料の1回目の意見交換のところに「今後の意見交換の進め方について協議」と書かせていただいたが、市がアンケートを取ることは良くないと考えている。作務的な発問にもなるし、いよいよ市がやり始めてきたなという印象を与える。アンケートが必要かどうかも学校運営協議会で協議してもらい、地区で合意すれば良いと思う。1回目の意見交換ではまず状況を理解して2回目を行う。地区によっては2回ではなくもっとやった方が良いという学校区も出てくるかもしれない。それぞれの地区でスピード感は違うと思う。

(委員7)いま教育長が仰ったことで良いと思う。ある程度のスケジュールは必要だが、丁寧に意見をいただく、それが地区によって違うことはあり得る。意見がたくさん出るようなら2回では足りないから、回数を増やすということも起こりうる。資料についてはいま児童生徒数と部活動だが、それ以外に示すべき資料があるのかな。伏木先生が仰ったような授業のやり方のサンプルのようなものがいくつかあるとイメージしやすくなると思う。

(委員6)今日はこれからの飯田市の義務教育の学校をどのように整理していったらいいか、その手続きをどう住民と一緒に考えていくかというプロセスが議題だったと思うが、一方で飯田市民として生きていく人たちがこの議論に関わっていくことが非常に大事だと思っている。仮に自分の思うように進まなくても、自分の子ども

たちのことを考えて、勉強して議論に関わったという経験は、この地で生きていく人たちにとって大きなエネルギーになる。そういう意味では自治協だけでなく住民懇談会のような多くの人たちの声が聴ける場を設ける姿勢を行政が見せる。それがまちを一緒に作っていくんだというメッセージになる。でもそれにはすごく時間がかかるので、いつまでにどう議論をしたいのか、決着をいつまでにつけないといけないのかというロードマップを示した方が良い。自分たちが知っている教育、今までのイメージの学校だけでは議論は留まってしまう。新たな学校づくりを自分たちでしませんかといった自治協がいくつも出てくると、なんて幸せなまちづくりを大人たちが子どもたちに提供できるのかと思う。大変なことだと思うがロードマップを示しつついろんな人を巻き込んでみんなで夢を語る。言いにくいかもしれないが行政がどれだけお金を負担しないとイケないとか、加配予算は出せないよなどの財政の現実を大人はちゃんと知るべきだと思う。教育の理想の面だけではなく現実の財政の面も一緒になって語りながらみんなで考えていく。そこに挑戦する自治体はあまりないが期待している。

(座長)まとめというわけではないが、第1回の意見交換は現実を理解してもらうためにもこの資料で説明していくということでよろしいか。説明の仕方などは今日のご意見を参考に事務局で考えていきたい。

(委員3)私は龍江に住んでいるが、丘の上の都会で起きているこの現状を見るとハッとします。やはり情報を正しく知ると何とかしないとイケないという危機感が生まれる。危機感が生まれると次にどうマイナス面があるのかということを知りたくなる。もちろんマイナス面はあるが、これは転換のチャンスでもある気がする。小さい学校には小さい学校なりのやり方やとても良いところもある。前回の講義での木曽の学校のように小さい学校だからこういう可能性があるというような議論が上がってこない、人数が減ってきたから学校をくっつけようということありきの議論では寂しい気がする。少子化によるプラスや可能性についても話し合っていきたい。

4. 次回開催案内(説明:事務局)

- ・次回開催8月 第1回意見交換の状況報告、今後の進め方
- ・出席者は令和3年度の委員の皆さん

5. 閉会(副座長)

皆様お疲れさまでした。いろんな意見が出て90分間が本当に短く感じた。我が事として考えると意見がたくさん出る。それぞれの学校の資料を見た時、学校運営協議会の委員の皆さんがどういう問題意識を持っているのかが浮き彫りになってくる。8月の意見交換の報告を受けながら本気で考えていけると思った次第である。第1回目から「子どもを中心において」とさかんに言ってきた。そのことを考えると前回坂野先生から「子どもの満足度」が重要であると学んだ。また伏木先生からは主体的に学び合う子供は、一律に束ねた子どもじゃないということも学んだ。個性や多様性をもつ子どもたちを大事にして、伝統・慣習・形にとらわれない学校運営協議会やまちづくり協議会での議論があればいいなと思う。

山田洋二監督の映画で今の私にフィットする台詞がある。ある著名な画家が「人生ってああすれば良かった、どうしてあんなことをしてしまったのか、の後悔の連続ですよ。」と言うと、相手方の昔の恋人が「たとえもう一方の道を選んだとしたら後悔しないと言い切れますか。」と言う。私たちはどの局面に立っても、必ず後で後悔する。だからこそ避けては通れない大きな課題に真正面から我が事として向かっていき結論を導いていくしかないのだと思う。

また、引き続きよろしく申し上げます。